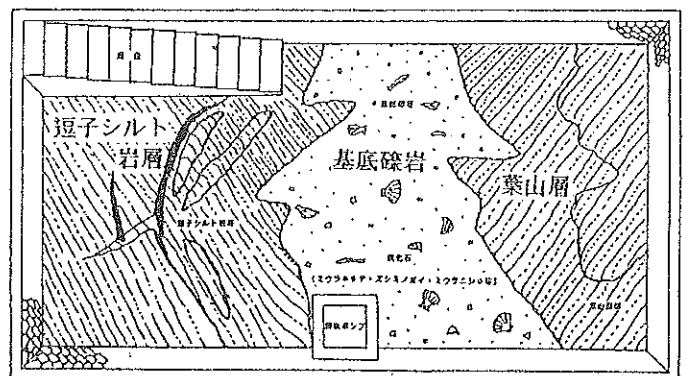
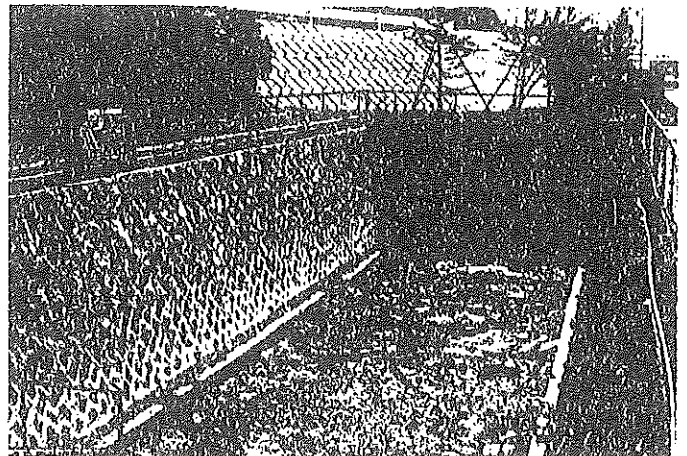


逗子市 郷土資料館 だより

平成6年2月1日 発行 NO. 9

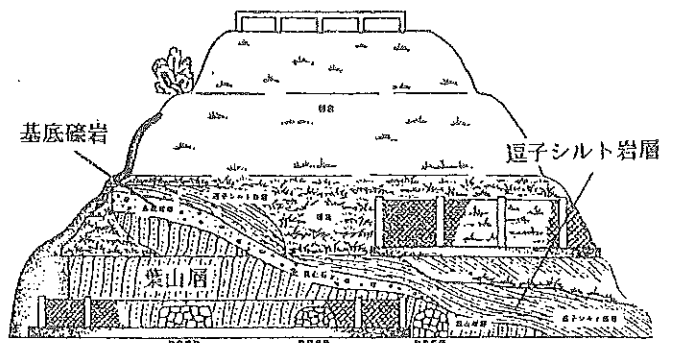
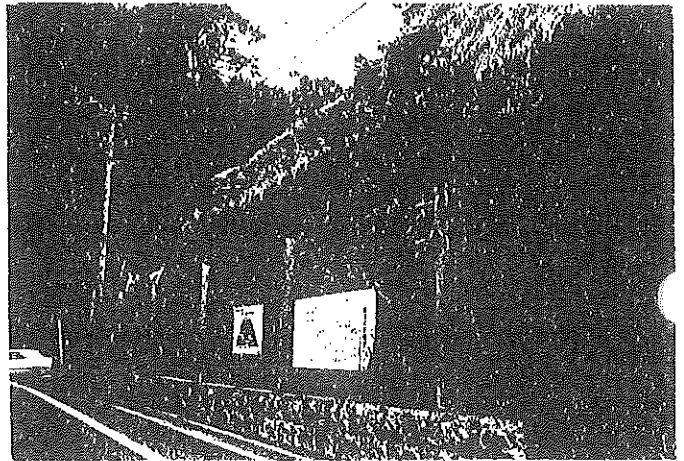
今回の郷土資料館だよりNO. 9は、^{およすりよ せいごう}鏡摺不整合について説明したいと思います。不整合は逗子市の天然記念物に指定されている浄水管理センター内にあるものと県指定となっている^{さくらやま}桜山9丁目の道路際のもがあります。鏡摺は、逗子の一番南側の小浜湾に接した地域です。その昔、^{くら あおみ}鞍の鏡もする程にせまく、けわしい道であったともいわれ、人々が難儀した思いが、地名に寄せられているのでしょう。

鏡摺の不整合を示す^{ろとう}露頭は、地殻変動の跡を実際に見て観察出来る絶好の場所です。この、不整合を示す露頭は、大正14年(1925)に渡辺久吉理学博士によって発見されました。三浦半島でいちばん古い地層は、葉山層群だといわれています。葉山層群は、2500万年前の昔に、海底に堆積してできたもので、第3紀中新世の初期に起った、大八州造山運動と呼ばれる地殻変動で、海底から地表に押し上げられました。地表に現れ、風雨にさらされ、侵食をうけつづけ、約1500万年前に再び起った地殻変動によって再度海底に沈み、その上に逗子層が堆積し始めました。そして、海底で逗子層をのせた地盤が、次の地殻変動でまた地上にせり上がって出来上がりました。逗子層の下部には^{かていれきがんそう}基底礫岩層と呼ばれる、葉山層の砂岩、泥岩などの礫と貝の化石を含んだ地層があります。この上に^{ぎょうかいしつれきがん}凝灰質礫岩が積み重なっています。この基底礫岩層と凝灰質礫岩層を合わせて、逗子層と呼んでいます。基底礫岩層の中に見られる貝の化石は「ミウラホタテ」「ミウラニシキ」「ズシミノガイ」そのほか多くの貝がありますが、これらの貝の中には既に滅びてしまって存在しない種類も多い



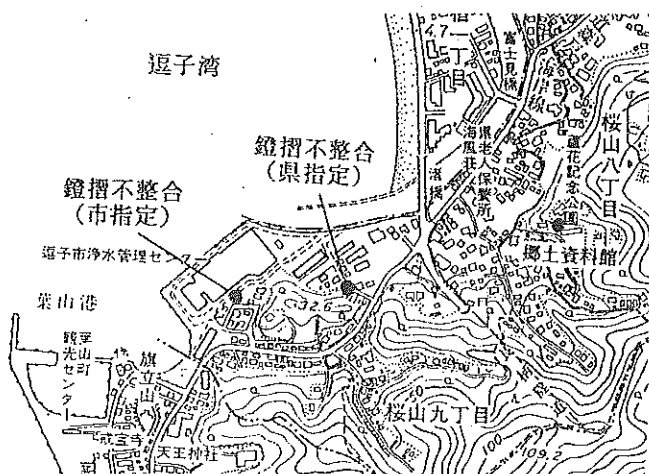
逗子市天然記念物 「鏡摺の不整合」の露頭
(昭和47年7月28日指定)

ようです。逗子層と葉山層群との間は、浸食によって生じた凹凸の多い、複雑な面^{おとつ}で境を接しています。上下に重なる地層の、それぞれの堆積時期に大きなへだたりがあるとき、これら2つの地層は不整合であるといわれ、その接している面を、不整合面と呼んでいます。逗子層が堆積した後にも、造山運動があったことを、この露頭は示しています。第三期末における三浦半島地域の変動の様子を示しているという点で、地史的にみて、「**鏡摺不整合を示す露頭**」は、たいへんに貴重な意義をもっています。何の変哲もない岩の集積ですが、地質学的価値は、きわめて高いものがあるといえます。鏡摺不整合は市指定の場所と県指定の2か所あります。市指定の不整合は、市の浄水管理センターの建物より少し山際によったところに、昔の海岸の一角を埋めずに保存してあるところがあります。ここに不整合が露出しています。県指定の不整合はJR逗子駅から、葉山行き海岸回りのバスに乗って「切り通し下」で下車して、葉山の方に向かって少し進むと、坂を登りつめたあたり、住宅が尽きて海岸のほうへ曲がる道があります。ここを曲がり、すぐ左手の崖を削った面にはっきりと不整合の状態が観察できます。



神奈川県天然記念物 鏡摺の不整合を示す露頭
 (昭和52年5月20日指定)

(文化財専門員 宮坂淳一)



1994年(平成6年)2月1日 発行
 逗子市郷土資料館だより NO. 9
 編集発行者 逗子市郷土資料館
 逗子市桜山8丁目2275番
 電話 0468-73-1741
 © 逗子市教育委員会 1994